

氏名(本籍)	相 ^{あい} 羽 ^ば 美 ^み 幸 ^{ゆき} (茨城県)		
学位の種類	博士(心理学)		
学位記番号	博甲第5782号		
学位授与年月日	平成23年3月25日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	大学生の恋愛における問題状況と恋愛スキルの構造		
主査	筑波大学教授	文学博士	松井 豊
副査	筑波大学教授	博士(心理学)	吉田 富二雄
副査	筑波大学准教授	博士(心理学)	湯川 進太郎
副査	筑波大学教授	博士(心理学)	岡田 昌毅

論文の内容の要旨

(目的)

本論文では、日本の大学生の恋愛における問題状況を特定し、各問題状況で必要な行動を読み取る能力である「読み取りスキル」、各問題状況で必要な行動の知識である「行動知識」、各問題状況で必要な行動を実行する能力である「実行スキル」の3側面から、恋愛スキルを捉えることにより、恋愛における問題状況と恋愛スキルの構造モデルを構築することを目的に実証的検討を行った。さらに、恋愛スキル向上のための支援策として、恋愛スキルトレーニングプログラムを開発し、その有効性について実証的に検討した。

(対象と方法)

研究1では、雑誌とHPの内容分析を行った。研究2では、大学生14名を対象とした面接調査を行った。研究3～9では、大学生を対象とした質問紙調査を行った(研究3:288名、研究4:345名、研究5:488名、研究6:337名、研究7:333名、研究8:137名、研究9:367名)。研究10では、大学生48名を対象に映像刺激を用いた集合実験を行った。研究11では、男子大学生12名を対象としたスキルトレーニングを行った。

(結果)

第4章では、日本の大学生の恋愛における問題状況を特定した(研究1～5)。その結果、交際前では3つ、交際中では4つ、別れ・交際後では3つの問題状況が特定され、多くの大学生が、交際前だけでなく、交際中や別れ・交際後にも悩みを抱えていることが明らかになった。これらの問題状況は、好意の主体によって、「自分からの積極的な働きかけに関する問題状況」「関係の維持に関する問題状況」「相手からのネガティブな行動に関する問題状況」の3つのまとまりに分類できることが明らかになった。

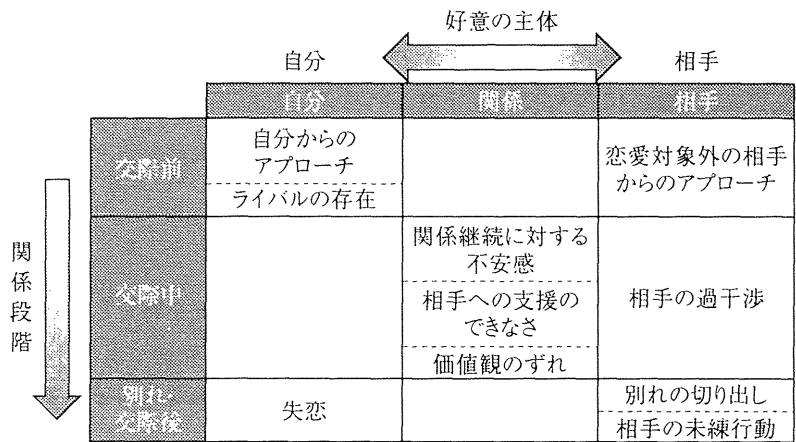
第5章では、恋愛における問題状況ごとに、異性から見て好ましい行動や好ましくない行動のリストを作成し、「読み取りスキル」「行動知識」「実行スキル」の3側面から恋愛スキルを測定する新しい手法を開発した(研究6～10)。その結果、異性から見て好ましい行動は、自分からの積極的な働きかけに関する問題状況では「積極的なアプローチ」、関係の維持に関する問題状況では「誠実な話し合い」、相手からのネガティブな行動に関する問題状況では「誠実に断ること」や「素直な意思表示」であった。一方、好ましくない行

動は、自分からの積極的な働きかけに関する問題状況では「しつこいアプローチ」、関係の維持に関する問題状況では「消極的受容」、相手からのネガティブな行動に関する問題状況では「一方的拒絶」であった。また女性は、交際経験を積むことで行動知識や実行スキルが高まることや、行動知識があれば必要な行動を実行できることが明らかになった。一方、男性ではこれらの関連が見られなかった。

第6章では、恋愛スキルトレーニングプログラムを開発し、その有効性を検討した結果、関係継続に対する不安感において行動知識や実行スキルが向上した。

(考察)

第7章では、「恋愛における問題状況の構造モデル (図参照)」と「恋愛スキルの構造モデル」を提唱した。本論文は、心理学研究上、次の4つの意義を持つと考えられる。第1に、日本の大学生の恋愛における問題状況の全体像を明らかにし、好意の主体という新たな視点を導出したことで、恋愛関係で生じる様々な問題状況を一つの枠組みで説明することが可能となった。第2に、問題状況ごとに異性から見て好ましい行動と好ましくない行動を明らかにし、各行動の好ましさの評価を用いてスキルの得点とする新たな測定手法を開発した。第3に、読み取りスキル、行動知識、実行スキルを分離して測定し、読み取りスキルの測定手法を新たに開発した。第4に、多くの大学生が苦手とする問題状況について、本論文で得られた実証的知見をもとに、協力者を必要としない恋愛スキルトレーニングプログラムを開発した。



審査の結果の要旨

本論文は、大学生の恋愛における問題状況と恋愛スキルの構造を明らかにし、恋愛スキルトレーニングプログラムを開発した。日本の大学生の恋愛における問題状況を特定し、恋愛スキルを測定する手法を開発して、恋愛関係で生じる様々な問題状況や恋愛スキルを一つの枠組みで説明することが可能となった。この点に同研究領域に対する寄与が認められた。また、大学生の恋愛スキルの向上のための支援策として、恋愛スキルトレーニングプログラムの開発を試みた点も、評価された。ただし、トレーニングプログラムに関してはさらなる効果測定が必要であるなどの課題も指摘された。

論文審査ならびに最終試験の結果に基づき、著者は博士(心理学)の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。